

金城学院大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講科目コード(Course code)	38360201
授業科目名(Course name)	香粧品科学B		
担当者(Instructors)	今井 健雄	所属(Affiliation)	
開設学部学科(Department)	薬学部 薬学科	科目分類番号(Course classification number)	713
開講クラス(Class)	薬 3	開講形態 (Course format)	講義
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	1
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	前期 集中講義	担当形態 (Instructor format)	単独
実験実習費 (円) (Experiment/training fee (yen))		履修者数上限 (名) (Maximum number of students)	75
選択必修区分(Required classification)	選択必修		

■授業の概要(Course outline)
人類に文化と呼べるものが備わったとき、既に化粧は存在したといわれている。その始まりは、先史時代における儀式や祭礼における身体の彩色で、呪術的・宗教的な要素の大きいものであった。時代が移り変わり、人類が高度な文明を持つ様になっても、化粧の習慣は意味合いや形を変えながらも絶えることなく続き、現代では、生活の基本要素である衣・食・住に続く4番目の要素として位置づけられるほど一般化した。 一方、化粧品（香粧品）科学は皮膚科学、薬学、界面化学、心理学、感性科学、色彩学等が融合した学際的な研究分野である。本講義では、化粧の歴史や役割などの文化的な側面にも目を向け、最新の香粧品科学を修めることで、「化粧品の多様な価値」に対し理解を深めることを目標として設定された科目である。 【実務経験】化粧品メーカーで商品の研究開発等を行っている教員が、化粧に関連する幅広い分野の内容について講義する。 関連科目（香粧品科学A, 化粧品学）

■到達目標(Course goals)
化粧品および「美と健康」に関する科学と情報を学び、化粧品の科学的側面と多様な価値、QOL向上への寄与について理解することができる。

■履修上の留意点(Important points)
なぜ、化粧品が生活に欠かせない要素となっているかについて、その機能や価値に関心を持ち参加する。

■学位授与方針 (Diploma policy)
1. 知識・理解 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と薬学に関する深い専門的知識を身につけている。◎ 2. 汎用的技能 薬学的問題に取り組む基礎能力を身につけ、情報を適正に取り扱い、色々な角度から問題点を論理的に考えて解決を図ることができる。◎ 4. 統合的な学修経験と創造的思考力 これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。○

■授業計画(Lesson plan)
1. 化粧品（香粧品）とはーその種類と価値の多様性（講義） 2. 化粧の歴史（講義）

3. 皮膚のしくみとスキンケア①（講義）
4. 皮膚のしくみとスキンケア②（講義）
5. スキンケア化粧品の効果訴求と肌の計測・評価（講義）
6. 顔の不思議－その魅力と印象（講義）
7. メイクアップ化粧品－基礎（講義）
8. メイクアップ化粧品の価値と実際（講義）
9. 毛髪のしくみとケアの基礎（講義）
10. ヘアカラーとスタイリング（講義）
11. 化粧品分野の官能評価（講義）
12. 清浄文化の歴史（講義）
13. 生活文化と環境問題（講義）
14. 現代日本人と化粧（講義）
15. 最終レポート（試験）

■授業時間外学修（予習・復習）の内容・時間(Preparation/review details and time)
化粧品やドラッグストアなどで、化粧品がどのような機能訴求をしているのかを確認するとともに、科学的に妥当か否かを考える。

■課題／課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)
講義を受け、自分自身あるいはまわりの人々に必要な化粧品や美容施術について考える。

■テキスト・参考書(Textbooks/references)
本講義で取り上げる、化粧や顔の印象をはじめ「顔」に関する分野全般の参考書として「顔の百科事典」（日本顔学会編:2015年，丸善出版）

■評価方法(Evaluation method)
レポート 50% 授業中の理解力確認小テスト 50% 講義内容に対する理解力を確認し、化粧品をエビデンスに基づく科学的視点で考察できるかどうか。また、化粧の文化的な側面を理解したかどうかについて評価する。 再試験の場合はレポート形式とし、「授業中の理解力確認テスト」30%，再レポート70%として評価する。

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)
口頭、メールでの対応可能